

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名（特別支援学校伊賀つばさ学園）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 一人ひとりの個に応じた教育が行き届き、家庭・地域に信頼される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 児童生徒が、明るく元気に学校生活を送っている。 ○ 児童生徒が、個々の適性に応じた進路を実現でき、地域社会で生き生きと生活している。
	ありたい 教職員像	○ 児童生徒理解を深め、個々の実態に即した適切で継続的な指導・支援を実践できる。 ○ チームワークを大切にして、達成感や充実感を共有できる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><児童生徒> 毎日楽しく学校に登校でき、友だちと仲良く、体験を通して多くのことを学びたい。</p> <p><保護者> 子どもたちの実態に即したきめ細かな指導・支援を展開し、地域の中で生活できる力を育成してほしい。</p> <p><地域企業・施設> 挨拶をはじめとした基本的な生活習慣の確立や自立した生活ができる力を育成してほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p><家庭> 子どもや学校の様子を詳しく知らせしてほしい。</p> <p><他校種の学校> 特別支援教育に関する専門的知識の提供や研修支援をしてほしい。</p> <p><地域企業・施設> 児童生徒の教育活動の様子をもっと発信してほしい。</p>	<p><家庭> 教育活動に対する理解と協力、家庭での様子の情報交換。</p> <p><他校種の学校> 交流共同学習の推進、支援に係る継続的な情報交換。</p> <p><地域企業・施設> 体験実習の推進、卒業後の受け入れに係る体制整備。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の異動が多い現状であり、これまで積み上げてきた教育実践をうまく繋いでいく体制づくりが必要である。 ・学校行事や教育内容等様々な工夫がなされ展開されているが、知肢併設校として肢体不自由教育の取組の整理が必要である。 ・保護者の教育内容に対する満足度から、12年間を見据えたキャリア教育の取組内容をさらに保護者に丁寧に発信していく必要がある。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の障がいの重度・重複化、多様化とともに、教育的ニーズも変化してきており、より質の高い教育を実践するために、専門性向上のための研修体制の充実が求められている。 ・多様な進学動機をもつ入学生が増加しており、卒業後を見据えたキャリア教育の充実と進路指導体制の更なる整備が求められている。 ・インクルーシブ教育システムの構築を進めるため、合理的配慮に関する理解を深めるとともに、交流及び共同学習の充実と学校からの円滑な移行に向けた効果的な整備が求められている。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀地域唯一の特別支援学校であり、地域のセンター的役割を發揮できる専門性の向上とともに教育相談体制の充実が求められている。 ・学校からの積極的な情報発信とともに学校関係者評価委員会をはじめ外部の意見を取り入れた学校運営の改善が求められている。 ・危機管理に対する組織としての対応力と教職員意識の向上が求められている。 ・全教職員の意思統一や円滑な情報共有を進めるとともに教職員一人ひとりが生き生きと業務が遂行できるよう、風通しの良い職場環境づくりが求められている。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援体制の確立に向けて、学部ごとに主要テーマに基づいたキャリア教育と進路指導を進める。 ○ 特別支援教育のセンター的役割を発揮できる学校づくりを進めるため、医療・福祉機関等の関係諸機関との連携強化や教育相談体制を充実する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域社会に開かれた学校づくりを進めるため、学校見学会や公開体験授業等の積極的な取組や組織的な学校諸活動の地域発信体制を整備する。 ○ 教職員が自ら学び生き生きと仕事ができる学校づくりを進めるため、達成感や充実感を共有でき風通しの良い職場環境と総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導	<p>(1) 学部別主要テーマに基づいた基本的な生活習慣定着のための取組を実施する。</p> <p>小学部: 主体的にあいさつできる力の育成 中学部: 一日の流れを意識した生活態度の育成 高等部: 自己表現力と他者と協力し助け合う態度の育成</p> <p>【活動指標】毎月定期的な振り返り(学部、学年、グループ別) 【成果指標】「取組評価アンケート」により成果が見られたと答えた割合: 80%以上</p>	<p>計画どおり実施</p> <p>89%</p>	※
進路指導	<p>(1) キャリア教育プログラムと年間指導計画の領域・観点別体系化を進める。</p> <p>【活動指標】教務部、進路指導部等による検討会議: 各学期1回開催</p> <p>【成果指標】体系別年間指導計画の作成: 100%</p> <p>(2) 小学部から段階的に社会体験、職場見学、現場実習を実施する。</p> <p>【活動指標】校外学習、現場実習の計画的な実施 【成果指標】「取組評価アンケート」により現場実習等に参加した児童生徒の割合: 90%以上</p>	<p>計画どおり実施</p> <p>100%</p> <p>計画どおり実施</p> <p>95%</p>	◎ ※
生徒指導	<p>(1) 自主通学生徒に対する交通ルールの定着を図る。</p> <p>【活動指標】定期的な登下校指導の実施 登校時: 第一水曜、下校時: 毎週金曜 通学経路危険個所の点検: 随時</p> <p>【成果指標】「取組評価アンケート」により交通安全を意識できたと思えた生徒の割合: 100%</p>	<p>全教員により登校指導(毎日)と下校指導(週2日)を実施</p> <p>97%</p>	※

	(2) 体罰根絶、いじめの未然防止のための組織的な体制づくりを進める。 【活動指針】生徒指導委員会、特別支援校内委員会等における 児童生徒の丁寧な実態把握:月1回 関係機関との定期的な情報交換:随時 【成果指標】「取組評価アンケート」により意識して取り組めたと答えた割合:80%以上	生徒指導委員会(3回) 特別支援校内委員会(7回) 計画どおり 100%	※
健康推進	(1) 健康的な生活習慣の定着や改善のための取組を進める。 【活動指標】運動タイム・保健指導の積極的な導入 体系的な食育の指導 【成果指標】「取組評価アンケート」により意識して取り組めたと答えた割合:80%以上	計画どおり 80%	※

改善課題

- ・ 授業改善に向けた意識が浸透しつつある。キャリア教育プログラムと個別の指導計画、個別の教育支援計画との連動に基づく体系的な教育課程の編成と授業づくりの取組を進める必要がある。
- ・ 児童生徒の障がいの多様化や家庭環境基盤の複雑化など、一人ひとりに寄り添ったより丁寧な支援体制が求められている。関係機関との連携体制の見直しを進める必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
研修	(1) 計画的な学校見学会を実施する。 【活動指標】公開体験授業(小学部5回、中学部4回、高等部2回)、学校見学会(年3回)の実施 【成果指標】参加者の満足度:80%以上 (2) 職員研修会を校外にも発信して実施する。 【活動指標】夏季職員研修会(8月)、人権教育講演会(8月)、グループ研修(年間5回)の開催 【成果指標】参加者の満足度:80%以上	計画どおり 90% 計画どおり 100%	◎
情報提供	(1) ホームページでの定期的な情報発信を進める。 【活動指標】定期的な更新:原則各学部月2回 双方向のシステムの検討 (2) 特別支援教育に係る定期的な発信を進める。 【活動指標】「特別支援教育だより」の発行:年5回	計画どおり アクセス数:700件/月 計画どおり	※ ※
連携	(1) 関係機関との連携や保護者同士のつながりを強める体制づくりを進める。 【活動指標】地域生活支援連絡会の開催:年2回 【成果指標】参加者の満足度:80%以上	計画どおり 95%	

組織運営	<p>(1) 教職員一人ひとりの勤務を見直し、生き生きと仕事ができる環境づくりを進める。</p> <p>【活動指標】金曜日ノー会議デいの設定と会議の効率化 定時退校日の導入:月1回 個人面談の実施:年3回/人 校務分掌等見直し検討会議の開催:年3回</p> <p>【成果指標】「職員満足度調査」により満足と回答した割合: 80%以上</p> <p>(2) 危機管理意識の醸成と対応力の向上の取組を進める。</p> <p>【活動指標】定期的な避難訓練の実施:年4回 危機管理マニュアルの見直し:年2回 コンプライアンスミーティングの実施:年1回以上</p> <p>【成果指標】「職員満足度調査」により危機意識が向上したと回答した割合:80%以上</p>	<p>金曜日ノー会議デいは徹底できず</p> <p>会議資料事前配布による効率化推進</p> <p>他は計画どおり</p> <p>70%</p> <p>計画どおり</p> <p>80%</p>	※
------	---	--	---

改善課題

- ・伊賀地域唯一の特別支援学校としてのセンター的機能に対する期待は大きい。教職員の専門性の向上と資質向上に向けた取組を一層進める必要がある。
- ・教職員一人ひとりがやりがいを持って生き生きと仕事ができる環境づくりが求められている。会議の精選や効率化を進めるとともにチームワークの育成を図る必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりに寄り添った授業実践や卒業後を見据えた取組などの教育内容や教職員の意識・姿勢に対して、保護者をはじめ一定の評価を得ている。しかし、毎年教職員の異動が多く、授業実践や校務分掌業務の積み上げなどが次年度に繋がりきれない課題も見られる。 ・次年度の課題として、「情報共有と引継体制の確立」「授業改善」「キャリア教育の充実」「情報発信の強化」を柱として取組を進める。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育プログラムと連動した授業実践を推進する。一人ひとりの「生きる力」を育む授業づくりを進めるため、外部専門家の協力を得ながら継続的な研修会の開催や先進校視察を積極的に実施する。 ・保護者進路学習会の内容面の工夫を行い、小学部段階からの系統的な進路指導の取組を積極的に発信する。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒情報や運営部の業務内容について、学部主事や運営部長を核とした組織体制の見直しを進める。 ・公開体験授業や学校見学会、ホームページなどにより、教育活動の地域発信を積極的に進める。 ・会議に向けた資料の事前配布や協議事項の論点を明確にし、効率的な会議を進めるとともに、ノー会議デい導入による定時退校を進める。